

植村理葉さんのヴァイオリン演奏

2月12日(日) 18:00~20:20の間、川崎市の「ミュージア川崎シンフォニーホール」で行われた「マーラー祝祭オーケストラ第14回定期演奏会」で最初の30分間、ソリストとして出演された植村理葉さんの演奏と、その後の同オーケストラ単独の演奏を鑑賞しました。このオーケストラは、ウィーンの国際マーラー協会から承認を受けて2001年に発足したそうです。

会場は1,997席もある、たいへん豪華なもので、八木さん、近藤さん、阪本さん、吉川さん及び私の5名で、前から2列目の席に坐って鑑賞しました。阪本さんとは、去年の上野における理葉さんのリサイタルで初めて会ってから二度目の出会いでした。

恥ずかしながら、私はオーケストラをナマで聴くのは初めてでした。そして、このように間近で88名もの演奏者の楽器の音をダイレクトに聴き取ることができ、非常な幸福感を覚えました。因みに阪本さんはオーケストラのナマ演奏に数十回行ったそうですからすごいです。

世界的に有名な理葉さんと一緒に演奏できることで、オーケストラのメンバーの方たち(学生や社会人)も幸せそうでした。

指揮者の井上喜惟氏は、次頁のプログラムにあるように、これまたものすごい方で、今年の春にはニューヨークの「ペガサス・オーケストラ」の指揮者に就任されるそうです。

理葉さんの演奏は、今回も素人ながら非常に素晴らしいと感じました。弦を指ではじきながら、巧みに演奏されるのは、まさに神業でした。

次頁にプログラムの1頁を御紹介します。



コルンゴルトはチェコ共和国で生まれ、「モーツァルトの再来」と期待されるほどの天才だったのですが、ユダヤ人であるために、ナチスの迫害を逃れるためにアメリカに亡命し、亡くなるまで帰国できなかった悲劇の作曲家だったようです。

エーリヒ・ヴォルフガング・コルンゴルト (1897-1957) *Erich Wolfgang Korngold*

ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 Op.35(1945)/ (約 25 分)

Violin Concerto in D-Major, Op.35/(25 min.)

- 1.Moderato nobile
- 2.Romance, Andante
- 3.Finale, Allegro assai vivace



グスタフ・マーラー (1860-1911) *Gustav Mahler*

交響曲第 5 番 嬰ハ短調 (1902)

(ラインホルト・クビックによる新校訂版 2002 年) / (約 75 分)

Symphonie Nr.5 in cis moll

(Kritische Neuausgabe von Reinhold Kubik 2002)/(75 min.)

第 1 部 *I. Abteilung*

1. 葬送行進曲、正確な速さで、厳粛に、葬列のように *Trauermarsch, In gemessenem Schritt, Streng, Wie ein Kondukt*
2. 嵐のように荒々しく動きをもって。最大の激烈さを持って *Stürmisch bewegt. Mit grösster Vehemenz*

第 2 部 *II. Abteilung*

3. スケルツォ、力強く、速すぎずに *Scherzo. Kräftig, nicht zu schnell.*

第 3 部 *III. Abteilung*

4. アダージェット、非常に遅く *Adagietto. Sehr langsam*
5. ロンドーフィナーレ、快活に *Rondo-Finale, Allegro*

指揮 ◎ 井上喜惟

Hisayoshi Inoue



16歳で渡欧。ウィーンを拠点にバルティーン、チェリビダツケ、バンスタインらの巨匠のもとで学ぶ。チェコ国立ブルノ・フィルでデビュー後は欧州各地のオーケストラに客演。1993年からはアルメニア国立フィルを中心に活動。ピアノの巨匠館

野泉&チェコナショナル交響楽団とのCD(キング・レコード)をはじめ、特にAltusから現在までにアルメニア・フィル、ジャパン・シンフォニアとの多数のアルバムをリリースし多くの注目を集めている。

幅広いレパートリーの中で、特にバルティーン譲りのマーラーの演奏はそのユニークな解釈が高い評価を得ている。

2016年11月にはエルサレム交響楽団の日本公演でも指揮をとった。

現在、ジャパン・シンフォニア、マーラー祝祭オーケストラの音楽監督、モンゴル国立フィル、アルメニア国立フィルの客演指揮者。2017年春にはペガサス・オーケストラ(ニューヨーク)の指揮者に就任予定。

ヴァイオリン ◎ 植村理葉

Riyo Uemura



桐朋女子高等学校音楽科を卒業後、文化庁芸術家在外研修員(3年派遣)としてケルン音楽大学で研修、最優秀成績で卒業。ローザヌ音楽院ヴィルトゥオーゾコースを最優秀成績で卒業。全日本学生音楽コンクールヴァイオリン部門小学生

の部全国1位。新日鉄音楽賞・フレッシュ・アーティスト賞受賞。ミケランジェロ・アバド国際音楽コンクール優勝、L.モーツァルト国際コンクール最高位及びモーツァルト特別賞受賞。東京フィルハーモニー交響楽団、群馬交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団他、ハレ・フィルハーモニー管弦楽団、サンクトペテルブルク・カメラータなど、ヨーロッパでソリストとしてオーケストラとの協演は90回に及び、高評を得る。

ドイツソニーからシューマンのヴァイオリン協奏曲、カメラータ・トウキョウから『フランス・ヴァイオリン作品集』をリリース。

全日本学生音楽コンクール審査員。植村理葉ヴァイオリン夏期講習を開催。

演奏会が終わって八木さんの奥様とそのお友達にお会いしましたので、写真を撮らせていただきました。左から四人目が福田さん、五人目が八木夫人です。実は今日、阪本さんに聞いて、福田さん（旧姓新田さん）と八木夫人（旧姓早川さん）が西高の1期後輩だと聞き、かなり驚きました。

その後理葉さんのお母さんとお爺さんにもお会いできました。それにしても、出会う方数名が阪本さんに挨拶をされており、彼の顔の広さに感心しました。



阪本さんと久しぶり会ったので、近藤さんと三人で川崎日航ホテル地下の焼き鳥屋「戎」で歓談しました。阪本さんからは、幕末から昭和までの日本の特に海軍に関する軍事的な政策や戦略などについて高度な講義を受けました。感心しているうちに午後10時を回りましたので、続きは後日ということで、残念ながらお開きとしました。

素晴らしい一日でした。



（終わり）